

**【質問件名】本市における小中学生の学習用デジタル教科書の活用を含む**

**I C T 教育について**

**【質問者】小金丸かずよし 議員（まるまる戸八会）**

**■小金丸かずよし 議員**

本市では児童生徒が1人1台使用できる端末の整備が計画的に進められ、デジタル教科書の活用によって、教職員の負担軽減や、児童生徒自らが情報を収集し、使いこなす「探究的な学習」に寄与することが期待されております。その一方で、様々な課題も生じ、準備に時間を要することに加え不具合の際の対応など学校では教職員の方々の負担が増加することもあると聞いています。本市の小中学生におけるデジタル教科書の活用状況と今後の展開について、見解を伺います。

**■太田清治 教育長**

デジタル教科書は、児童生徒の活用が進んでいるところです。音声を読み上げる、図形を自由に動かす、配色や文字のサイズ、書体を変更するなど、デジタルならではの多彩な機能があり、学習の内容や児童生徒の状況に応じて、これらの機能を効果的に活用しております。他方、機器のフリーズや通信エラーが生じた際、児童生徒の学習が一時的に中断し、集中力が途切れてしまう等の課題もございます。令和7年9月に公表されました「審議まとめ」には、紙またはデジタルか、あるいは紙とデジタルを組み合わせたハイブリッド型か、3つの教科書のタイプから、自治体が選択できること、デジタルを活用した教科を増やしていくことなどが示されています。教育委員会としては、新たな学びにふさわしい教科書について、国の動向を注視するとともに、実践事例や児童生徒の反応等を踏まえながら、学校での最適な活用方法の研究を進めてまいりたいと考えております。

**■小金丸かずよし 議員**

健康被害や子どもたちの書く力である筆圧が非常に今低下しているということで、皆様ご存じでしょうか。今、教育現場では、私たち世代間、年齢差がありますけども、昔HBの鉛筆を使っていたことが、今2Bが推奨されているそうなんです。これは確実にですね、書く力・握力・体力も低下しているんじゃないかなと懸念しております。デジタル化をすすめ、もう一つは読み書きをする、しっかりと子どもに力を育む教育を進めていただきたいと思います。国の方針ではありますけども、北九州独自のやり方も見出すべきと感じております。